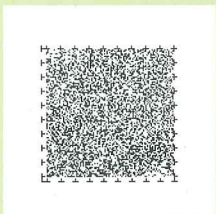




才能や個性を伸ばし、絵の楽しさを伝える式隆先生

ありが ヒューマン ドキュメント



サポート明星
ありかわ

つよし

[有川 剛司]さん 鹿児島市

感じたままを描く 豊かな色彩のアート

有川剛司さんは鹿児島市在住の22歳。幼少の頃から絵を描くことが大好きで、暇を見つけてはもくもくと画用紙に向かう日々を過ごしてきた。生活介護の支援を行う「サポート明星」に通い始めたのは、養護学校を卒業後の18歳から。自宅のある伊敷から、毎日送迎バスに乗って通っている。

人懐っこい笑顔で周囲を和ませる有川さんだが、ひとたびペンを握ると画用紙に向かう視線は真剣そのもの。定規とカラーボールペンを使って、緻密で丁寧なペン使いと大胆な色彩感覚で作品を描き上げていく。

代表作は、表紙に掲載した「お母さんの手」。実はこの作品、トロンプ・ルイユという、いわゆる騙し絵の技法を使って描かれており、白い輪郭

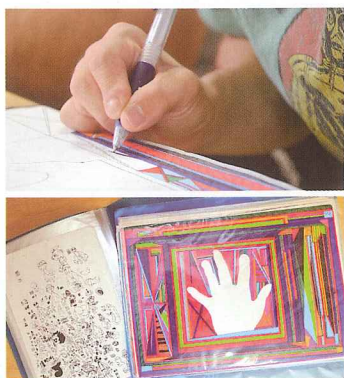


有川剛司さん

の手（お母さんの手）のほかに、お父さんとおばあちゃんの手が隠されている。有川さんの作品において、手のひらのシルエットは自己表現のモチーフ・象徴として数多く登場する。その理由を有川さん自ら語ることはないが、強烈な色彩と、直線主体の幾何学模様の中にあつて、丸い輪郭の手のひらのシルエットがひととき優しい印象を見るものに与えている。

個性を見出し、伸ばす サポート明星の取り組み

サポート明星の開設は平成15年。「利用者のニーズに応じた個別支援」、「基本的生活習慣の支援」、「体験や経験、生活空間、興味・関心の拡大」、「集団生活を通じた協調性の獲得」、「自己選択、自己決定を尊重する各種サービスの提供」、「運動や活動を通じた健やかな心身づくり」という6つの具体目標をもとに、利用者の基本的な権利を尊重し、心に寄り添う支援と、個性を見出し、伸ばす支援を実践している。活動内容は農作業や、布工藝、料理、パソコン、フィットネスなど



はじめは白黒の線画を描いていたが、カラーペンを使い始めると一気に独特の色彩感覚を発揮するようになった

多岐におよび、外部講師を招いて行われる絵画や、陶芸、リハビリテーションなどのプログラムも行われている。自由時間にもペンと画用紙を離さない有川さんにとっては、毎週月曜日には外部講師の式隆先生の指導の下に行われる絵画教室はなにより楽しみ。式先生は「丸と三角と四角が書ければ、その組み合わせで太陽も月も山も車もなんでも描けます。はじめは下手でも、描くことで上達し、上達することで好きになる。絵を描くことは人間の本能。思うままに画用紙に向かつて、色と形を描くことから個性や才能が芽生えてくるんです。生徒たちには一枚の絵の力を信じてもらいたいし、逆に私が生徒たちから絵の力を教えられることもあります」と、話してくれました。



社会福祉法人 常盤会
<http://www.tokiwakai.com>

・法人本部・鹿児島市犬迫町5975
TEL.099-238-0881 FAX.099-238-0669
・サポート明星・鹿児島市犬迫町6017-2
TEL.099-238-0701 FAX.099-238-0717

